

1. 三井小の校内研究目標

自分の考えを持ち、豊かに表現し、科学的に探究できる子をめざして

2. 研究主題

協働的な学びを通して、理科・生活科の資質・能力を高める学習指導の工夫

- ①理科・生活科の見方・考え方を大切にした学習指導
- ②学びをつなげて深め、個が輝く理科・生活科の学習指導

さらに、理科好きな児童を育むためには、楽しくわくわくする学習活動に加えて、児童が学習する過程で成功体験を得たり、確実な力を身につけたりして「分かる・出来る」などの自信を持つことが大切だと考える。そのため、各学年からの課題と成果をもとに。以下のように研究の重点を設定した。これらを重点的に指導し、児童に確実に必要になる力（見方・考え方）を系統的に育成する。

理科の考え方

- 1・2年...理科の単元につながる気づき、発見を促す生活科の学習指導。
- 3年.....比べて考えよう。(比較)
- 4年.....つながりを発見しよう。(関連付け)
- 5年.....条件を変えて実験を計画しよう。(条件制御)
- 6年.....複数の情報を整理して考えよう。(多面的)
- 3～6年...数値化して考えよう。
- 3～6年...思考ツールを活用しよう。(座標軸、表、イメージマップ、フィッシュボーン図、ベン図など)

理科の見方 (科学的な視点)

- ①量的・関係的な見方 ※XとY (力や電気などのエネルギーに関する範囲)
- ②質的・実体的な見方 (ものを作っている粒子の範囲)
- ③共通性・多様性を見方 (生物の範囲)
- ④時間的・空間的な見方 (地学の範囲)
- ⑤原因と結果の見方
- ⑥部分と全体
- ⑦定性と定量

3. めざす児童像

- ・理科に興味を持ち意欲的に学び、自然を尊重する児童
- ・見通しをもち論理的に物事を探求できる児童
- ・科学的な言葉や概念を使用して考えたり、表現したりできる児童
- ・協働的に学び、自分の考えを広げ深めることができる児童